

ESPACE SUPER LIGHT
エスペース・スーパーライト
ESPACE SUPER LIGHT Plus
エスペース・スーパーライト プラス

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください



- ご不明な点は販売店、または弊社までお問い合わせください。
- この取扱説明書は仕様改良のため予告なく変更することがあります。

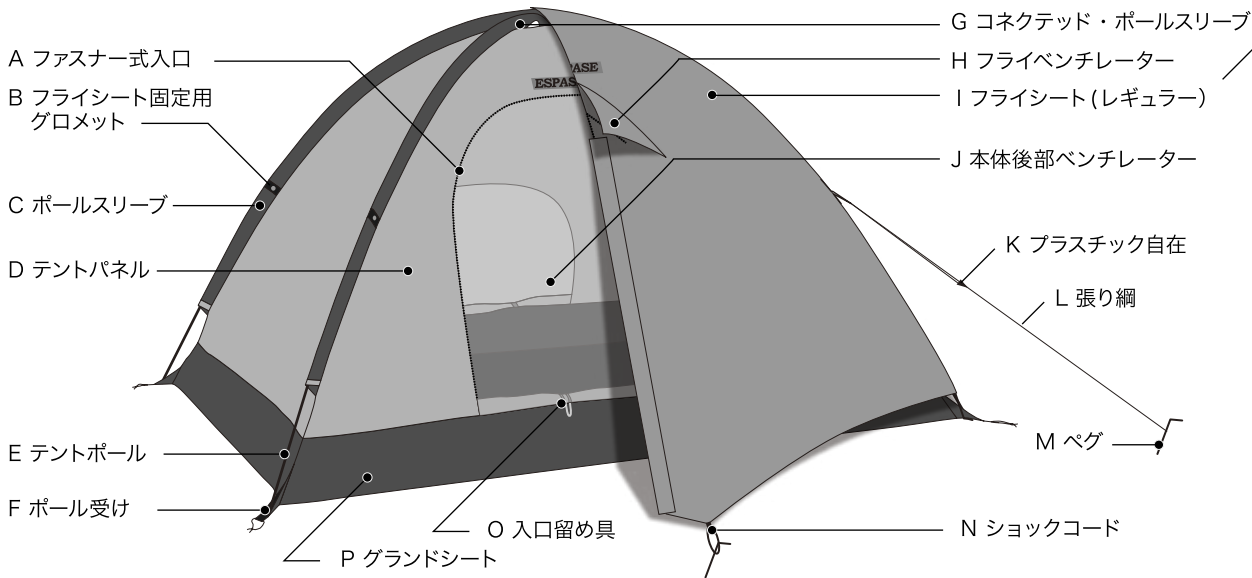
株式会社ヘリテイジ 〒399-8302 長野県安曇野市穂高北穂高2827-18
☎0263(82)0141 WEB SITE : <http://heritage.co.jp>



ESPACE®

各部名称と説明

この図はフライシートの半分をカットしたモデル図です。



A ファスナー式入口(クイックエントランス)

フルオープンな入口は通気性に優れた、また開閉、出入りもスムーズです。換気のために常に少し開けておいてください。なお低温下ではファスナー凍結の恐れがありますから冬期使用には向きません。

B フライシート固定用グロメット

フライシートと本体を接続固定する穴です。これによりフライシートの張り綱を張ることで本体自体が固定されます。

C ポールスリーブ

この中にポールを通し湾曲させれば、ドーム型テントになります。スリーブの高さはフライシート装着時にテント本体とパネルとの空間を保つための立ち上がりです。フライシートを均一に張り、本体と接触しないようにしてください。

D テントパネル

テント室内のムレや結露を防ぐため、通気性に優れた生地を使用しています。降雨時には必ずフライシートを併用してください。

E テントポール

テントの生命部分ともいえるパーツです。メンテナンスをしっかり行い、山行に合わせて予備パーツなどを携行してください。

F ポール受け

ポール末端の石突きを固定するグロメットです。2つのグロメットでテントの張りの強さの調整が可能です。

G コネクトド・ポールスリーブ

頂点交差部が連結されていますのでポール通しがスムーズに行なえます。

G コネクトド・ポールスリーブ

H フライベンチレーター

I フライシート(レギュラー)

J 本体後部ベンチレーター

K プラスチック自在

L 張り綱

M ベグ

N ショックコード

H フライベンチレーター

効果的な換気を行なえるようにフライシートに開閉可能な換気口が付いています。

I フライシート

雨や夜露などを防ぐ防水アウターシートです。防水地(耐水圧2,000mm/cm²以上)で本体を守ります。通気性はありません。テント使用の際には必ず携行してください。

J 本体後部ベンチレーター

換気を効果的に行なえる大型のベンチレーターです。荷物の出し入れなどにも利用できます。常に開けておくように心がけてください。

K プラスチック自在

テントを固定、または撤収する際に張り綱の張りを簡単スピーディーに調整出来ます。



I 前室付きフライシート(Plusフライ)

L 張り綱

テントを固定し、耐風性、居住性を高める重要なパーツです。必ず固定してください。

M ベグ

地面にショックコードや張り綱を固定するためのアルミ製の杭です。

N ショックコード

このループをベグダウンしフライシート裾を固定します。ベグが打てない幕営地の場合には予備の張り綱などを利用し、石などで固定してください。

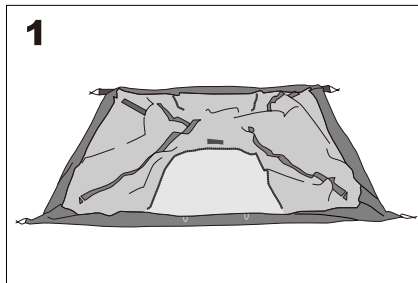
O 入口留め具

全開放したり、メッシュパネルだけにする時に入口パネルを束ねるためのパーツです。

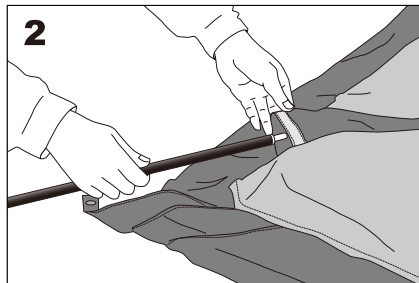
P グランドシート

パネル面までグランドシートが立ち上がり(バスタブ式)、接地面の縫い目を少なくしています。防水地(耐水圧2,000mm/cm²)を使用していますが、地面に接し、体重が加わるために水がしみることがあります。防水、保温のためにテントマットを必ず使用してください。

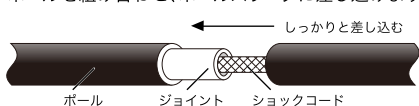
設営方法



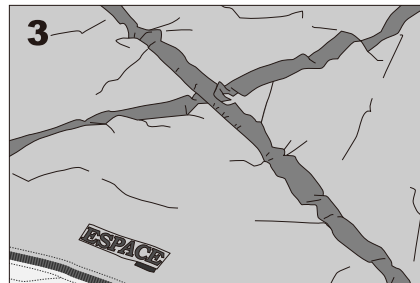
1 テント本体を広げます。入口は風がない時には半分程開けた状態で、風がある時にはテント室内に風が吹き込まない程度にほんの少しだけ開けます。基本としては入口を風下側に向けます。強風時にはベグでコーナー部分を仮り止めなどして、飛ばされないように十分注意してください。



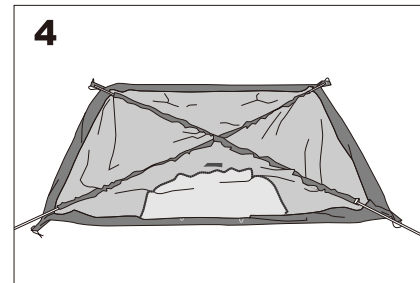
2 ポールを組み合わせ、ポールスリーブに差し込みます。



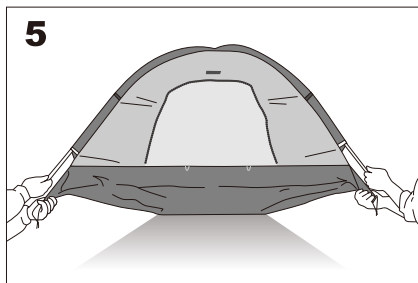
ポールを組み合わせる時には、各接合部(ジョイント)を完全に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、折損の原因となります。



3 頂点ではポールが交差しますが、もし引っかかった場合は無理に差し込まないで、ポールスリーブ通りに交差させてください。

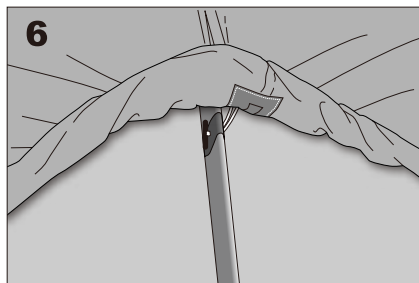


4 ポールを通し終わったら、それぞれ一方の端(石突き)を本体隅のポール受けに差し込みます。

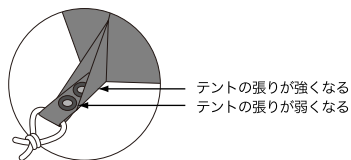


5 反対側のポール受けの付け根を持ち、2人で両方から同時にポールを押し込みます。湾曲させながらテント本体を起こし、ポール受けに固定します。一人で設営する場合には、まず交差している上側のポールを地面に寝かせたまま湾曲させて固定し、次に下側のポールでテント本体を立ち起こします。3ラインのポールを使用する6-7人用の場合には1人での設営はポールに過度のストレスが加わりますので避けてください。

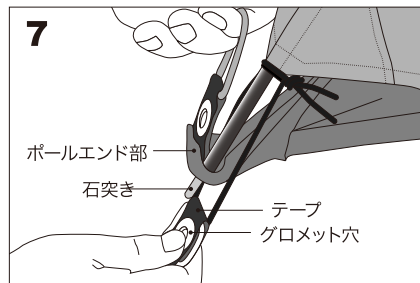
なお本体を立ち起こす際、突風などに対処できるように、設営者はテントより風上側で行なってください。温度、湿度により、テント本体の伸縮があります。ポール受けにある2つのグロメットで張りの強さを調整します。差し込みがきつい場合には外側のグロメットにセットしてください。(Plusは入口側の石突きは内側グロメットに入れてください)



6 フライシートをテント本体に被せます。この際、フライシートの入口とテント本体の入口を合わせてください。フライシート、テント本体ともに入口側に「ESPACE」マークが付いていますので目印になります。次にフライシート裏側の中間(張り網付け根部裏側)にある留め具を、テント本体のポールスリーブにあるグロメットに差し込みます。



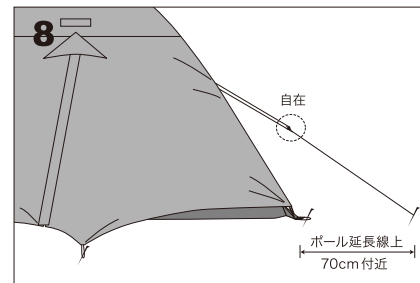
③



7 フライシートのショックコード(黒いゴムの輪)の間に、テント本体のループ(赤いヒモの輪)を通します。フライシートのテープ(黒でグロメット穴のある)を下に引きながら、ポールエンド部をくぐらせ、石突きにグロメット穴を差し込みます。きつ過ぎたりゆる過ぎる場合には、ショックコードの結び目で調整してください。取り外す時はフライシートとテント本体それぞれのループ(赤いヒモの輪)を逆方向に引くと簡単に外れます。

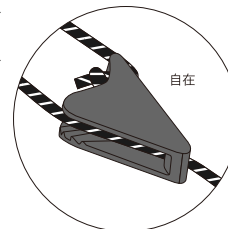
撤収時の注意点

ポールをテントから抜き取る際、ポールは反対側に押し出すようにしてスリーブから抜き取ってください。手前に引き出そうとするとスリーブ内でポールのジョイントが外れ、スムーズに抜き取れなくなります。また強風時には張り網を数本残しておくことでテントが飛ばされにくくなります。



8 残りの裾中間部にあるショックコードをすべてベグダウンします。その際、フライシートとテント本体の間の空間が保てるよう、なるべく本体から離して固定してください。張り網はそれぞれ対角線上に、ポール先端から約70cm離れた付近にしっかりとベグで固定します。

ベグの使用ができず、張り網で直接岩や石などに固定する場合は、岩角でロープが切れやすくなりますので注意してください。また、フライシートの裾には石などを直接載せないでください。

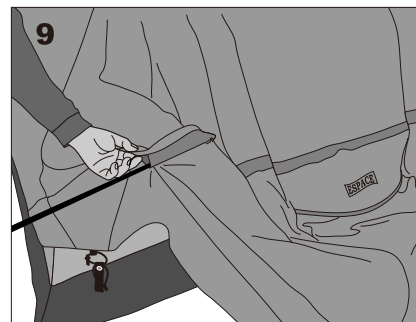


④

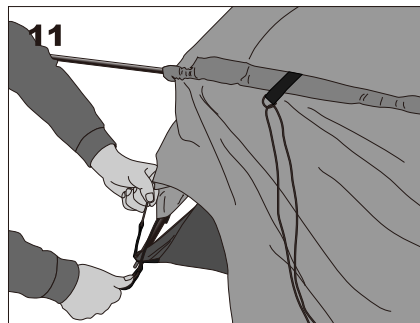
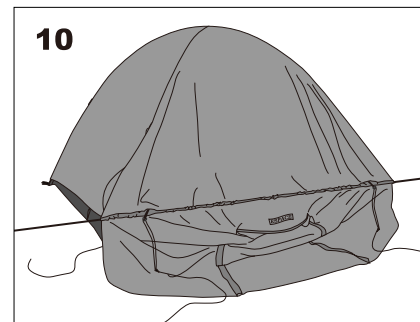
Plusフライ設置方法



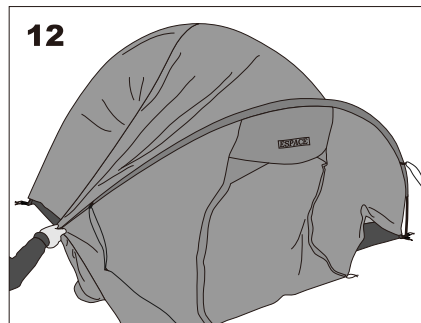
Plusフライシートは、ESPACE マークのある入口面を、テント本体のESPACE マークのある入口面に合わせて覆い被せます。
次にフライシート裏側の中間(張り網付根部裏側)にある留め具4カ所をテント本体のポールスリーブにあるグロメットにそれぞれ差し込みます。(P3/6 図参照)
さらに後面側のみフライシート裾のグロメットをポールエンドの石突きに差し込み、固定します。(P4/7 図参照)
入口側のフライシート裾はまだ固定しないでください。



フライシート前室部のポールスリーブに前室用のポール(赤色の石突き)を差し込み、ポールを一文字に通し終わめます。



前室ポールの石突きをテントのグロメットに差し込む前に、8の行程で固定しなかった入口側のフライシート裾のグロメットを、テントポールの石突きに差し込み固定します。
その後前室ポールのどちらかの石突きをテントのグロメット(外側)に差し込んでください。

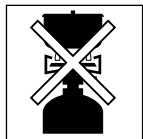


反対側のポールを押し込み、湾曲させながら前室部を立ち起こし、石突きをテントのグロメット(外側)に差し込みます。これで前室部のポールセットは完了です。



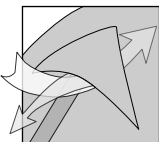
次にフライシート裾のショックコードをベグダウンします。前後から固定し、前、後室を十分に確保してから側面をベグダウンしてください。
最後にメインの張り綱をそれぞれ固定して設置終了です。(P4/8 図参照)
前室ポールの張り綱は個別に固定しますが、状況によってはテント前面側の張り綱と一緒に固定する方法もあります。

注意事項



火気厳禁

テント室内でのコンロ、ランタン等の火器は絶対に使用しないでください。テント室内は限られた空間のため火器を使用すると、火災発生の恐れや一酸化炭素中毒の恐れもあり非常に危険です。やむを得ず使用する場合は、必ず入口、ベンチレーターを開けて常に換気してください。またテントの生地は可燃性素材ですから、火器はテントパネルから十分に遠ざけ火災に注意してください。



換気必要

テントパネルはテント室内のムシを防ぎ、換気を図るために通気性を優先しています。しかし、雨天時やテントパネル面が結露または低温化で氷結した時などは、通気性が悪くなります。テント室内ではベンチレーターや入口を開けるなどして、常に換気をしてください。



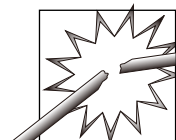
張り網の取り扱い

このテントに付属している張り網は外皮にポリエステル、中芯にダイニーマを使用しているため、軽量で強度(約100kgf)も保持しています。しかし、従来の張り網より径が細いので、自在を急激にスライドさせますと手を火傷したり自在を破損させる原因となります。張り網を張る際は岩角などに触れないように張ってください。摩擦により切断しますので十分注意してください。ペグなどを打てなくて岩石を利用する際は、直接張り網を岩石に結ばずに別のロープ等を利用してください。



フライシート

フライシートは降雨や夜露からテント本体を守るためのアウターシートです。防水加工を施していますから、通気性はありません。また低温下では入口ファスナー凍結の恐れがありますので、冬期には使用しないでください。



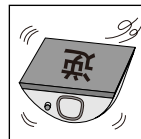
破損時には(スベアポール、リペアパイプ、応急処置品の携行)

テントポールは悪天候や不測の事態などで折れることがあります。折損の際は付属のリペアパイプを折れた部分にセットし、ガムテープなどで固定し応急処置してください。生地が破れた時には、ガムテープなどで両面から張り合わせて応急処置をしてください。山行日程に合わせて、スベアポール、リペアパイプ、予備の張り網などを携行してください。



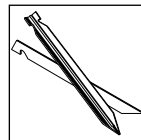
悪天候・強風時には

悪天候が予想される時には早急に下山する事が安全登山の鉄則ですが、万が一悪天候にみまわれた時には、各張り網がしっかりと固定されているかを再点検してください。張り網やショックコードがゆるんでフライシートとテント本体が接触すると換気機能が低下し、また漏水の原因ともなりますので十分注意してください。



テントを乾かす時

グランドシート下側を乾かすために、ポールをセットした状態でテント本体を逆さまにしないでください。ポールスリーブやテントパネルが地面と擦れ生地の劣化を早め、またポール折損の原因ともなります。

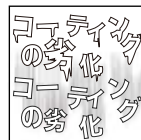


購入後の付属品の確認

テントやパーツの製造、販売には十分注意していますが、ご購入後は必ず山行前に試し張りをしてください。その際、付属品の数、ポールサイズ、設営具合などをご確認ください。また、テントの設営は繰り返し練習の上、実際の山行に備えてください。

セット内容

- テント本体(収納袋付)
- フライシート
- ポールセット：2-3人用、4-5人用は2ライン、6-7人用は3ライン、Plus 2-3人用、Plus 4-5人用はフライ専用ポール(赤い石突き)を含む3ライン
- リペアパイプ：1本
- 自在付き張り網：4本(6-7人用は6本、Plusは6本)
- ペグ：8本(6-7人用は12本、Plusは11本)
- ハンモックネット(テント内上部に取り付け済み)
- 取り扱い説明書

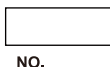


防水コーティングの劣化(加水分解)

グランドシートやフライシートの防水コーティングに使用しているポリウレタン樹脂は、ご使用にならなくても、徐々にポリウレタン樹脂が劣化してポロボ口になったりベタ付きが発生します。これは、ポリウレタン樹脂が空気中の水分、気温(熱)等の影響で次第に劣化していく化学反応(加水分解)によるものです。

加水分解は、一般的に5~7年をめやすとして進行し、復元させることは不可能です。使用、保管方法によっては劣化が早まりますので、ご使用後はメンテナンスを行ない、直射日光を避け、高温、多湿にならない場所で保管し、時々広げて乾燥してください。

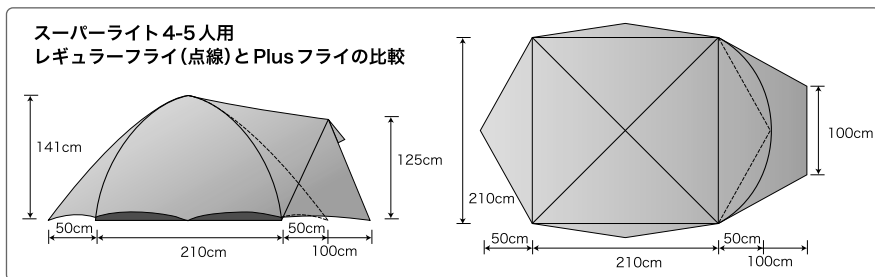
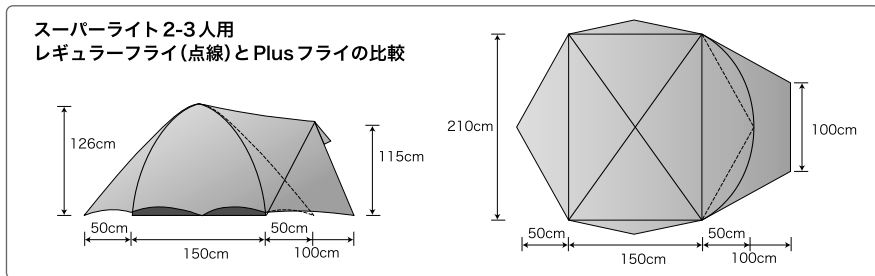
ESPACE



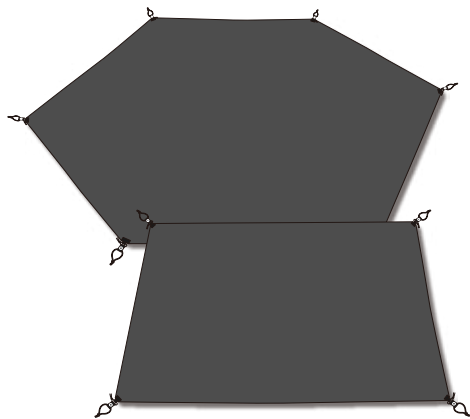
製造ナンバー

アフターサービスのため、製造ナンバー(テントバッグとテント室内に表示)により、ポールサイズ、パーツ類を管理しています。修理のご依頼、予備ポールやパーツのご購入の際は、必ず製造ナンバーを販売店にお知らせください。

レギュラーフライとPlusフライの比較



快適オプション



アンダーグランドシート

エスペースシリーズ専用のグランドシート下に敷くシートです。このシートを使用することでグランドシートの汚れ防止や耐久性、防水性を向上させることができます。またテント撤収の際、シートの上でパッキングでき大変便利です。その他にもベンチシートや簡易タープとしても使用可能で、多目的に使えます。

取り付けはいたって簡単。テントとアンダーグランドは各コーナーで固定されますので、設営後の移動も容易です。

生地：40D高密度ナイロンタフタ・ウレタン防水加工(耐水圧4,000mm/cm)

カラー：グリーングレイ

サイズ：2-3人用、4-5人用、6-7人用

※Plusフライの前室部分はカバーしません。

ご使用後のメンテナンス

- ご使用後は泥や汚れ等をよく落とし、風通しのよい日陰で十分に乾燥させてから保管してください。汚れのひどい場合は、スポンジ等で水による手洗いをしてください。洗剤は使用しないでください。もし使用する場合は十分すすぎ、洗剤を完全に洗い流してください。
- 汚れたり濡れたまま保管すると、生地の劣化を早めるばかりか、カビや色落ちの原因となりますので十分注意してください。また定期的にフッ素系の撥水スプレーを塗布すると生地表面の撥水性が持続します。
- ファスナーの泥汚れはファスナー破損の原因となりますので、常にきれいにしてください。定期的にYKKファスナーメイト(シリコンスプレー等)を塗布すると、スライダの動きがスムーズになります。
- テントポールもよく汚れを落とし、乾燥させます。ジョイント部には潤滑剤を薄く塗布してください。濡れたまま保管しますと、腐食し強度低下につながります。
- 次の山行に備え事前に異常や故障を発見するため、メンテナンスの際、テントポール、ファスナー部、張り綱などよく点検してください。
- 保管時には高温多湿になる場所を避け、収納袋には入れずゆったりと折り畳んで通気性のある袋(メッシュバックなど)に入れてください。特に長期間使用しない場合には、コーティング面の加水分解(前ページ注意事項参照)を進めないように、時々陰干しをするようにしてください。
- 生地の破れ、ファスナーの故障、ポールの折損などの修理は弊社にて承ります。修理のご依頼はお近くのエスペース販売店にお持ち込みいただくか、弊社宛にお送りください。その際にはテントの製造ナンバーをお知らせください。販売店の情報や修理に関しましては、弊社WEB SITEに詳しく記載しておりますので、あわせてご確認ください。ヘリテージ ウェブサイト <http://heritage.co.jp>